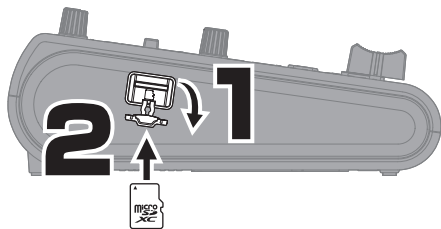


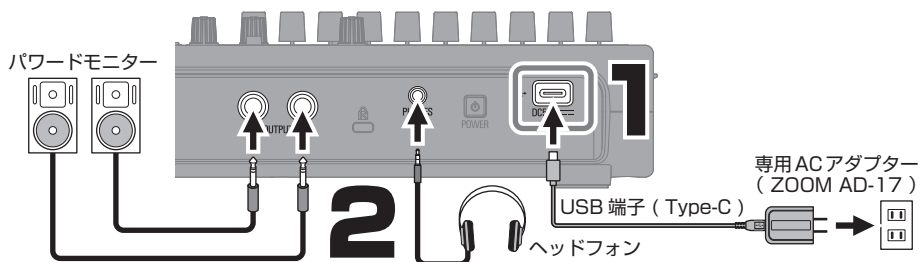
microSD カードをセットする



対応記録メディア
microSDHC : 4 GB ~ 32 GB
microSDXC : 64 GB ~ 512 GB

- microSD カードを抜き差しするときは、必ず電源を OFF にしてください。
- microSD カードを取り出すときは、一度スロットの奥に押し込んでから引き抜いてください。

接続する

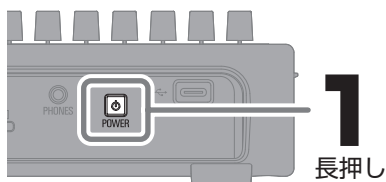


- パワーモニターの電源は R12 が起動してから入れてください。
- R12 は操作をしない状態で 10 時間が経過すると、自動的に電源が切れます。常に電源を ON にしたい場合は、電源の自動 OFF 機能 (Auto Power Off) の設定を Off にしてください。

- 市販のモバイルバッテリーを接続して、USB (Type-C) 端子から電源を供給することもできます。
- 乾電池 (アルカリ乾電池、ニッケル水素蓄電池、リチウム乾電池) を使用することもできます。

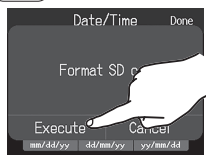
電源を入れて初回起動時の設定をする

■ 電源を入れる



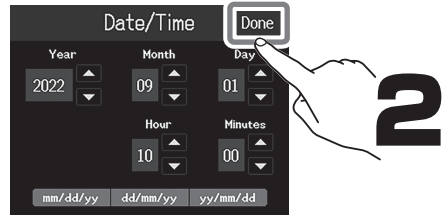
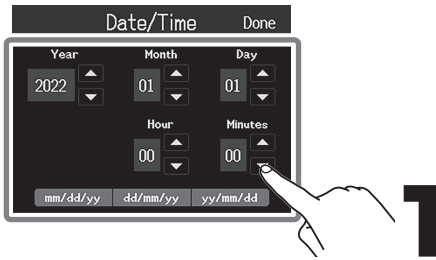
microSD カードをフォーマットするには

 を押しながら電源を入れてください。



R12 で初めてご使用になる microSD カードは、性能を最大限に発揮させるため、フォーマットすることをおすすめします。microSD カードをフォーマットすると、それまで保存されていたデータは全て削除されますのでご注意ください。

■ 日時を設定する



プロジェクトを作成する



テンプレートにはあらかじめリズムループが入っています。お好みのテンプレートを選んでください。

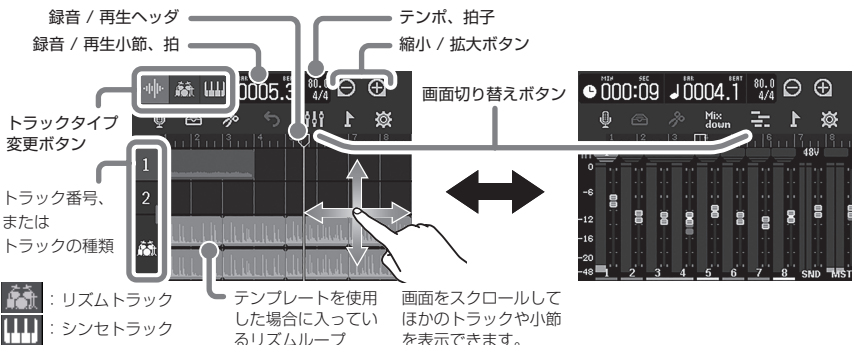
ホーム画面

•トラックビュー

通常の録音・編集画面です。録音した波形や位置を把握しやすいので、曲の構成を考えたり編集するのに便利です。

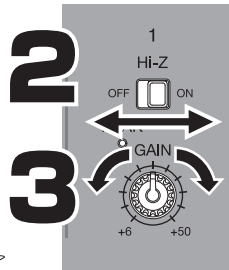
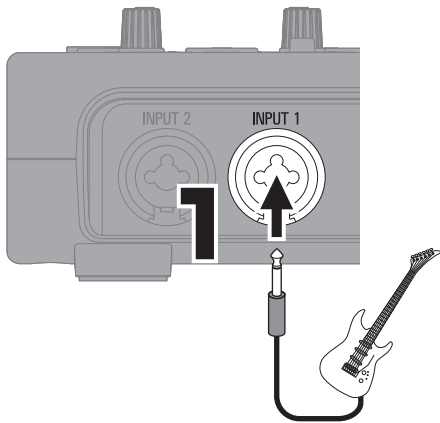
•レベルメータービュー

すべてのトラックのレベルメーターとフェーダーを表示する画面です。複数チャンネルの同時録音やミックスバランスの調整に便利です。



録音する

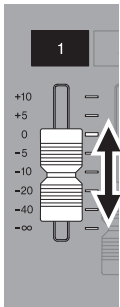
■ 接続と準備



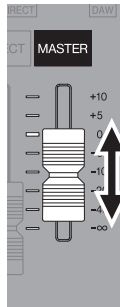
Hi-Z ON :
パッシブピックアップの
ギターやベース（直接接続）

Hi-Z OFF :
アクティブピックアップの
ギターやベース、シンセサ
イザーなどの電子楽器

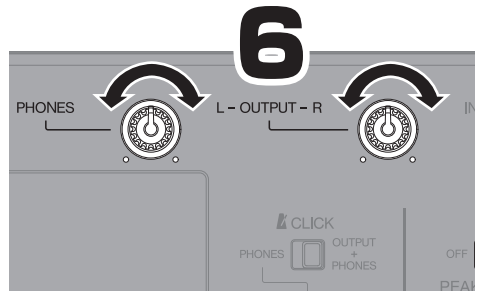
音を鳴らして、最大音量のときに [PEAK]
が点灯しない程度に調節します。



4

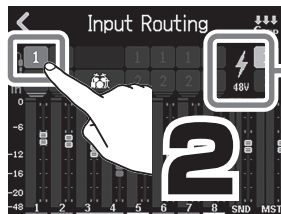
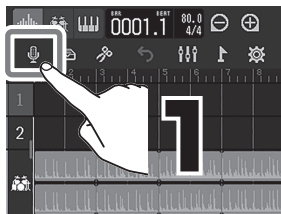


5



6

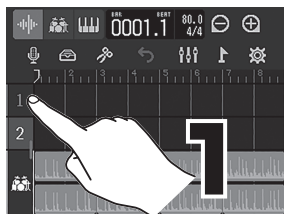
初期状態では INPUT1 がトラック 1 に割り当てられ、録音される設定になっています。INPUT 1（Hi-Z 入力）にギターとベースを繋ぎ替えて直結して録音したいときなどに、割当先のトラックをそれぞれ切り替えることができます。



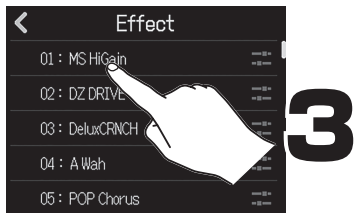
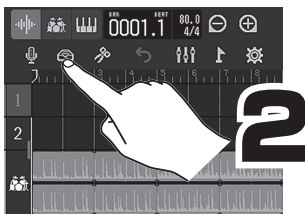
コンデンサーマイクにはファ
ンタム 48V を供給できます。

■ エフェクトをかける

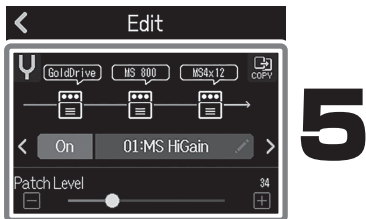
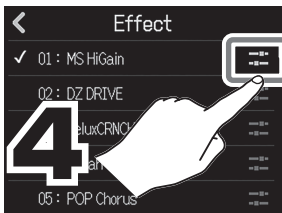
エフェクトの呼び出しや保存はパッチメモリー単位で行います。パッチメモリーとは、エフェクトの ON / OFF やパラメーターの設定値を記録したものです。



エフェクトをかけるトラックを選択する

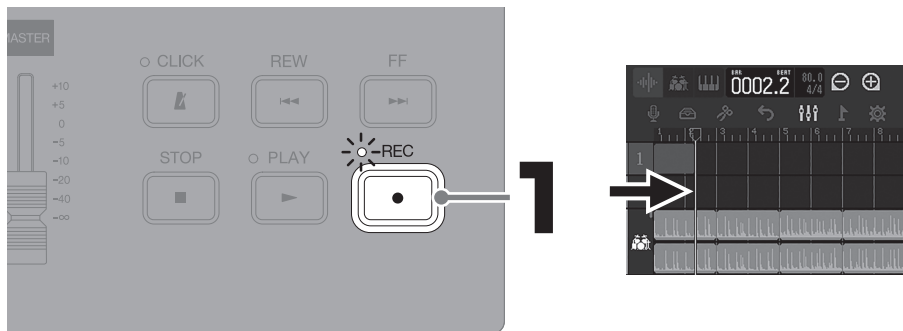


✓ を付けてパッチメモリーを選択する



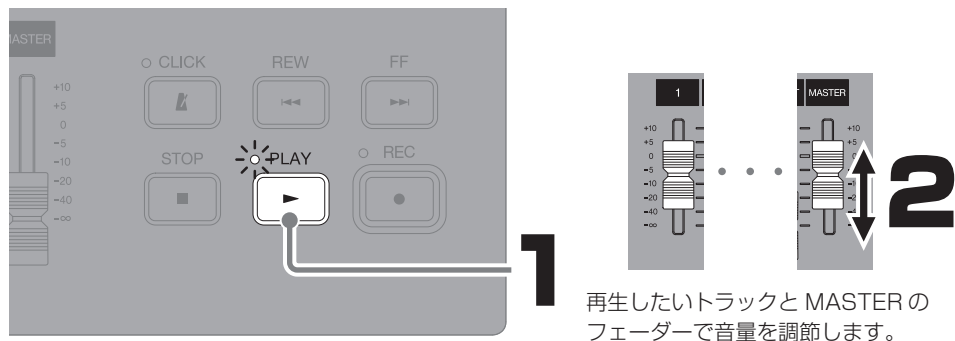
エフェクトの細かい設定を変更する

■ 録音する

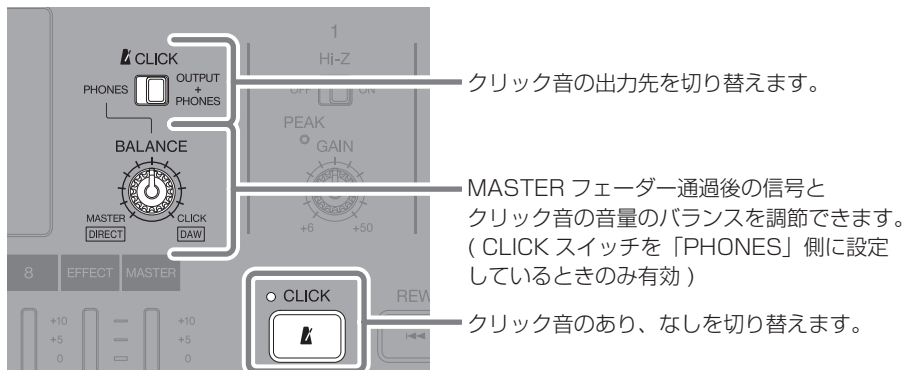


STOP を押すと、録音を停止します。
 停止中に STOP を押すと、録音 / 再生ヘッドが先頭に戻ります。

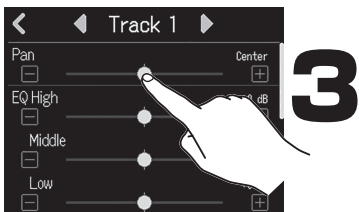
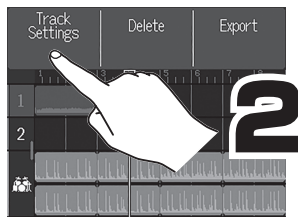
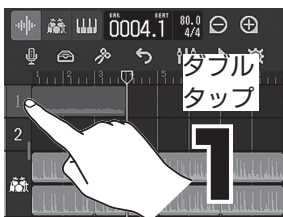
■ 再生する



クリック音を鳴らす



■ 各トラックの設定をする



トラックの各設定をする

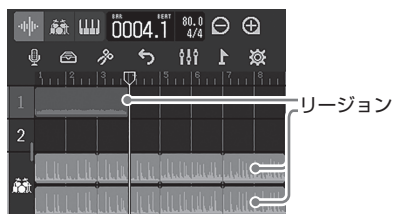
Pan や EQ、センドエフェクト、ステレオリンクの設定を変更できます。

ステレオリンクは、奇数番号のトラックと隣り合う偶数番号のトラックを連結して、1つのステレオトラックとして扱う機能です。トラックの設定やフェーダーの操作を共通にすることができます。

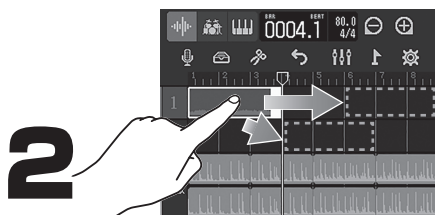
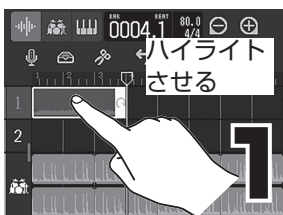
プロジェクトを編集する


録音した各トラックに追加される波形や MIDI ノートをリージョンと呼びます。

R12 には、オーディオ、リズム、シンセのリージョンがあり、これらを編集することでプロジェクトを作成します。

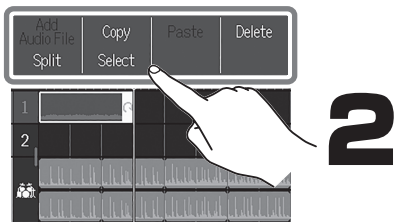
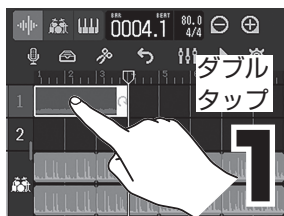


■ リージョンを移動する

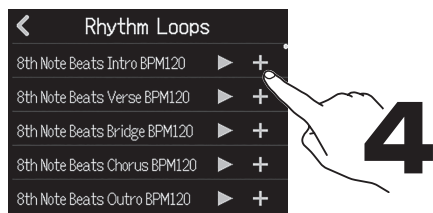
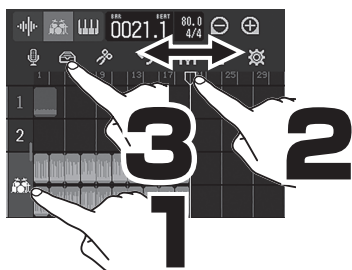


リージョンの右端  をドラックすると、リージョンを伸ばす（ループさせる）ことができます。

■ リージョンを編集する

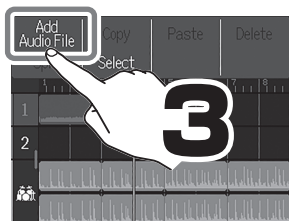
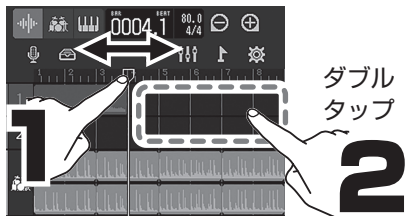


■ リージョンを追加する リズム

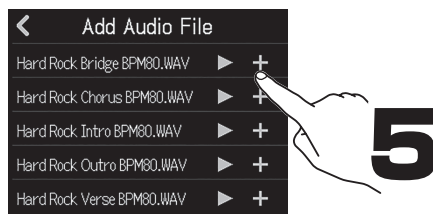
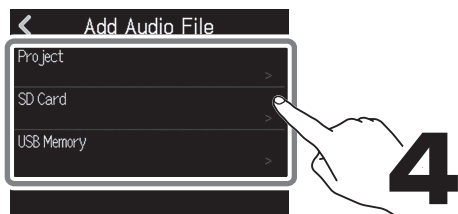


リズムループはプロジェクトのテンポに合うよう変換されて追加されます。

オーディオ



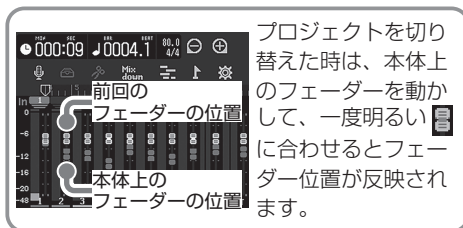
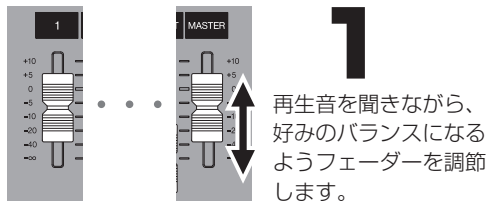
WAV ファイルを追加することができます。



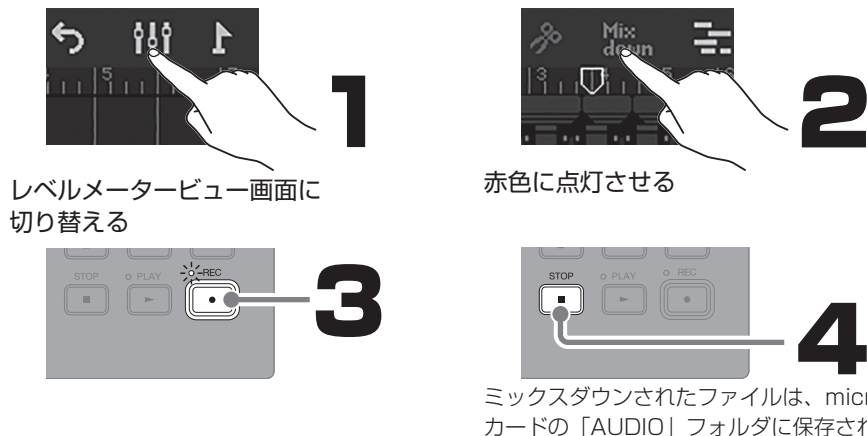
ミックスダウンする

プロジェクトをステレオ WAV ファイルにミックスダウンします。
プロジェクトを実際に再生しながら記録するため、再生中のフェーダー操作による音量の変化はすべて反映されます。

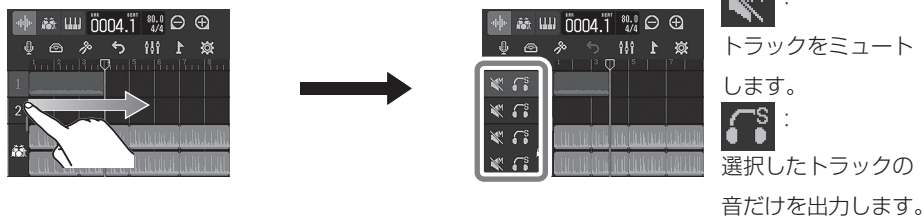
■ ミックスバランスを調節する



■ ミックスダウンする

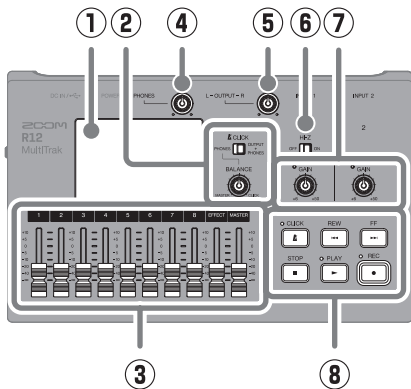


ミュート / ソロ機能



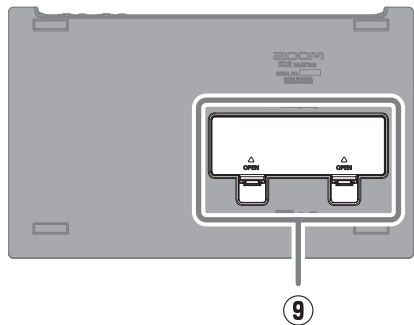
各部の役割

■本体上面



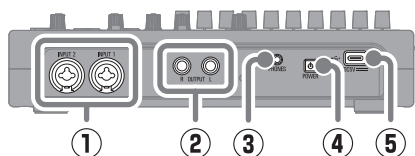
- ① タッチスクリーン**
各種情報が表示され、タッチで操作します。
- ② CLICK スイッチ / BALANCE ノブ**
CLICK スイッチを「PHONES」側に設定することで、PHONES 出力端子に出力される信号の MASTER と CLICK のバランスを、BALANCE ノブを使用して調節することができます。
- ③ チャンネル / EFFECT / MASTER フェーダー**
チャンネルフェーダー：各トラックの信号レベルを、 $-∞ \sim +10$ dB の範囲で調節します。
EFFECT フェーダー：センドエフェクトのリターンレベルを $-∞ \sim +10$ dB の範囲で調節します。
MASTER フェーダー：OUTPUT 端子と PHONES 端子から出力される信号レベルを $-∞ \sim +10$ dB の範囲で調節します。
- ④ PHONES 出力ボリュームノブ**
ヘッドフォンの音量を調節します。
- ⑤ OUTPUT 出力ボリュームノブ**
OUTPUT の音量を調節します。
- ⑥ Hi-Z スイッチ**
INPUT 1 の回路を Hi-Z 対応に切り替えます。接続するギターやベースに合わせて ON にします。

■本体底面



- ⑦ PEAK インジケター / 入力ゲインノブ**
入力ゲインノブで入力信号を調節します。PEAK インジケターが点灯しないように調節します。
- ⑧ 各種キー**
CLICK キー：クリック音の ON / OFF を切り替えます。ON のときはインジケターが点灯します。
REW キー：再生ヘッド（再生位置）をルーラ 1 目盛り分前に戻します。長押しすると早戻しします。
FF キー：再生ヘッド（再生位置）をルーラ 1 目盛り分先に進めます。長押しすると早送りします。
STOP キー：録音や再生を停止します。停止中に押すと録音 / 再生ヘッド（録音 / 再生位置）をプロジェクトの先頭に移動します。
PLAY キー：録音したファイルを再生 / 一時停止します。再生中はインジケターが点灯します。
REC キー：録音を開始します。録音中はインジケターが点灯します。
- ⑨ 電池カバー**
単三電池の取り付け / 取り外しをするときに開けます。

■本体背面



① 入力端子

マイクやキーボード、ギターを接続します。XLR、1/4 フォン（アンバランス）プラグに対応します。

② OUTPUT 端子

パワーアンプ、PA システム、パワーモニターなどを接続します。

③ PHONES 出力端子

ヘッドフォンを接続します。

④ 電源キー

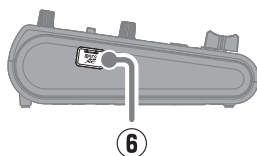
電源を ON / OFF します。

⑤ USB (Type-C) 端子

USB メモリーへのプロジェクトコピーやインポートの他、USB MIDI キーボードを接続するとシンセの演奏に使用できます。また、パソコンを接続すると以下のことができます。

- ・ R12 をオーディオインターフェースとして使用

■本体左側面



- ・ Guitar Lab を使って R12 のエフェクトを入れ替え
- ・ R12 をカードリーダーとして使用
- ・ DAW のフィジカルコントローラーとして使用

⑥ microSD カードスロット

microSDHC / microSDXC 規格対応カードに対応します。

その他の機能

プロジェクトの操作	名前変更、プロジェクトの複製、削除、書き出し、USB メモリーへのコピーができます。
波形編集	オーディオリージョンとリズムリージョンでは波形編集機能を使用できます。ピッチを変えずにリージョンの長さを変える、タイムストレッチ機能も備えています。
スナップ	リージョン、ノート（シンセの音）を表示されているルーラにスナップさせることができます。
ステレオリンク	隣り合う奇数トラックと偶数トラックを合わせて、ステレオトラックとして扱います。
トラックのオーディオファイルへの変換	トラックのリージョンを全て 1 つのオーディオファイルに書き出します。リージョン数の制限やエフェクト、シンセの制限を回避する方法として使用できます。
microSD カード / USB メモリーから WAV ファイル、MIDI ファイルの追加	microSD カードや USB メモリーに入った WAV ファイルや MIDI ファイル（SMF、Standard MIDI File）を、新しいリージョンとして追加できます。
マーカ	小節の先頭にメモを付けることができます。パートごとにメモを付ければ、曲の全体構成が把握しやすくなります。
クリック	プリカウント、音色変更が可能なメトロノームのほか、指定したトラックの出力を CLICK 出力に割り当てて、ヘッドフォンにのみ出力させることができます。

シンセ	R12はシンセサイザーの音源を内蔵しています。外付けUSB MIDI キーボードを接続することでリアルタイム演奏による入力や、ピアノロール画面でタッチスクリーンを使った入力ができます。また MIDI ファイルを読み込んでシンセレーションにすることもできます。
フィジカルコントローラー	パソコンなどに USB 接続した R12 のキーやフェーダーを使って、DAW のトランスポート操作やミックス操作をコントロールできます。
USB オーディオインターフェース	R12 をパソコンなどと USB 接続し、2IN / 4OUT または 2IN / 2OUT のオーディオインターフェースとして使用できます。
Guitar Lab 接続	オンラインで配信されるエフェクトの追加や、パッチメモリーの編集 / バックアップなどをパソコンで行うことができます。
microSD カードリーダー	R12 をパソコンと接続して、microSD カード内のデータの確認やコピーをすることができます。
シーケンスプレイ機能	複数のプロジェクトの演奏順をプレイリストに登録し連続再生します。ライブ演奏時の伴奏に便利です。

故障かなと思う前に

音が出ない、もしくは非常に小さい

- モニターシステムの接続、およびモニターシステムの音量を確認してください。
- R12 の音量設定が下がっていないか確認してください。
- CLICK スイッチと BALANCE ノブを調節してください。

マイクや接続した機器の音が聞こえない、もしくは非常に小さい

- マイクの向きや接続機器の音量設定を確認してください。
- R12 の入力ゲインの設定を確認してください。
- R12 のフェーダーの設定を確認してください。
- R12 の出力レベルの設定を確認してください。
- R12 のファンタム電源の設定を確認してください。

録音できない

- microSD カードに空き容量があることを確認してください。
- カードスロットに microSD カードが正しくセットされていることを確認してください。

INPUT 1 に入力する音のノイズが多い

- Hi-Z スイッチの設定を確認してください。

録音した音が聞こえない、もしくは非常に小さい

- 各トラックのフェーダーが下がっていないか確認してください。
- そのトラックがミュート、または別のトラックがソロになっていないか確認してください。

パソコンに接続しても認識されない

- USB ケーブルが充電専用のものではないか確認してください。
- R12 をパソコンに認識させるためには、R12 側で動作モードを選択する必要があります。

文中の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。

文中のすべての商標および登録商標は、それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。

ZOOM®

株式会社ズーム

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-4-3

zoomcorp.com